

レバテック版

ITエンジニア転職白書 2021



レバテック版 ITエンジニア転職白書 2021

01. 属性

1-1. 年齢	3
1-2. 職種	3
1-3. サービス領域	3
1-4. 開発の種類	3
1-5. 配偶者	3
1-6. 子供の有無	3
1-7. 最終学歴	3
1-8. 月の平均労働時間数	3
1-9. 現在の収入	3

02. プログラミングスキル

2-1. 実務レベルで使用できるプログラミング言語	4
2-2. 仕事で主に使用しているプログラミング言語	4
2-3. これから習得したいと考えているプログラミング言語	5
2-4. 初めてプログラミングに触れた年齢	5
2-5. プログラミング技術の勉強方法	6

レバテック版 ITエンジニア転職白書 2021

03. IT エンジニアの転職

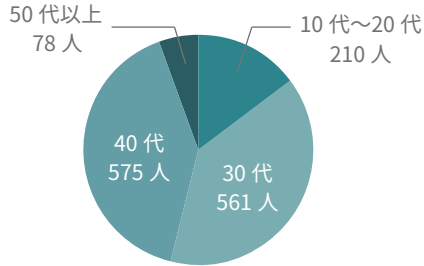
3-1. 重要視する働き方	7
3-2. 転職回数と重要視する働き方「給与」の相関	7
3-3. 仕事のモチベーション	8
3-4. 理想の職場	8
3-5. IT エンジニアとしての転職経験・転職回数	9
3-6. IT エンジニアとして転職した理由	10
3-7. キャリアの満足度から見る転職活動理由	10
3-8. 転職活動で活用した手段	11
3-9. 転職による年収の変化	11
3-10. 転職エージェントを利用して転職した人の年収の変化	12

04. リモートワーク

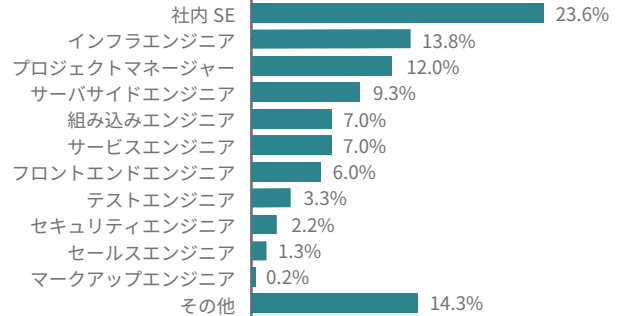
4-1. リモートワークの状況	13
4-2. 入社頻度	13
4-3. リモートワークの生産性、働きやすさ	14
4-4. リモートワークのメリット	14
4-5. リモートワークのデメリット、仕事をする上で心掛けて いること	15

01 属性

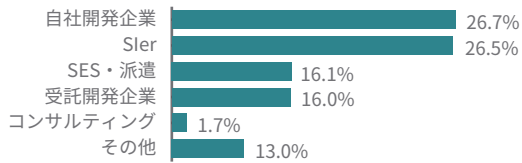
1-1. 年齢



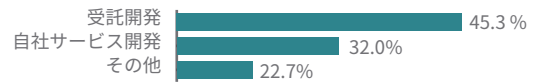
1-2. 職種



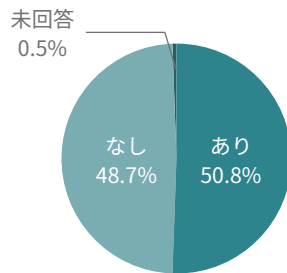
1-3. サービス領域



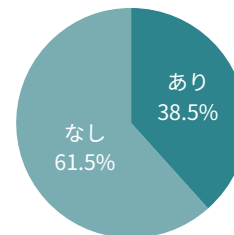
1-4. 開発の種類



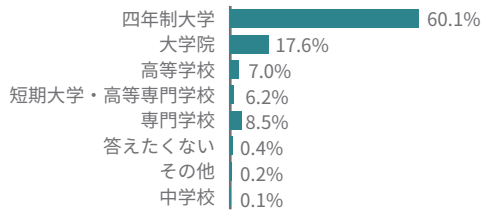
1-5. 配偶者



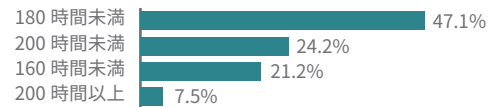
1-6. 子供の有無



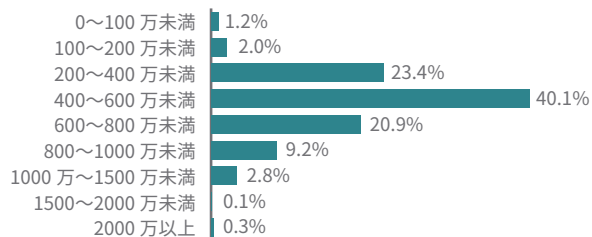
1-7. 最終学歴



1-8. 平均労働時間数



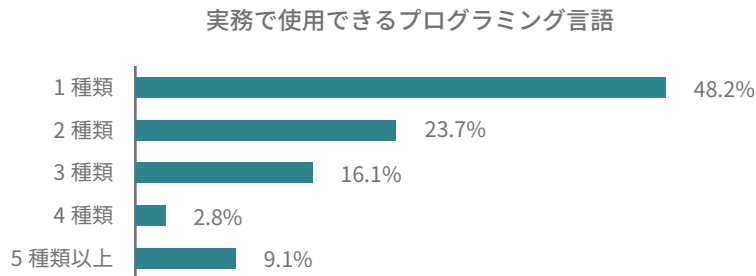
1-9. 現在の収入



02 プログラミングスキル

2-1. 実務レベルで使用できるプログラミング言語

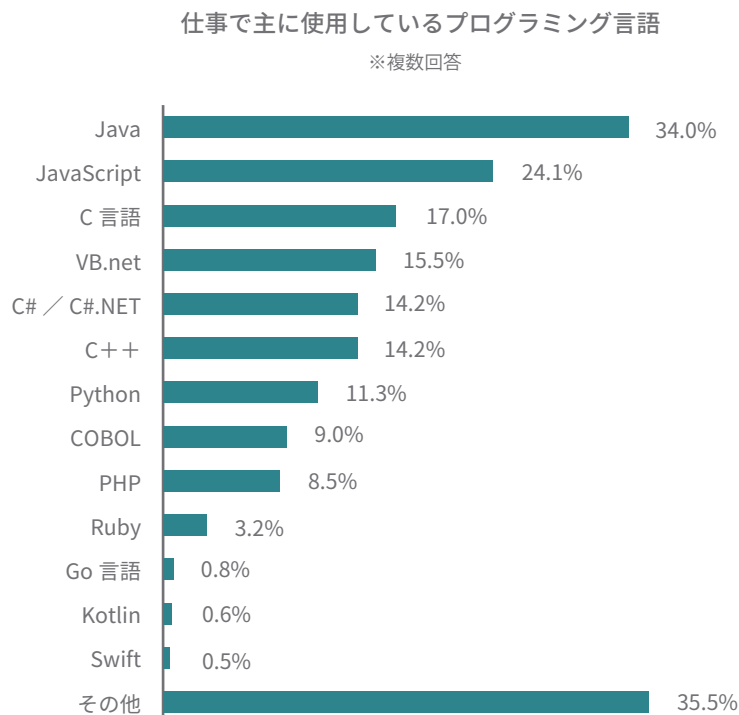
実務レベルで使用できるプログラミング言語について、半数以上のエンジニアが2種類以上の言語を習得しているという結果になりました。



2-2. 仕事で主に使用しているプログラミング言語

仕事で主に使用しているプログラミング言語は、その他 (35.5%) ついで Java (34.0%)、JavaScript (24.1%) と続きます。レバテックキャリアが保有する案件数はJavaが一番多く (※)、大規模なシステムやWebサービス、スマホアプリなどそのプログラム開発は多岐にわたります。Javaは新規開発のみならずシステムの保守も続くため今後も一定で高い需要が見込まれる言語です。

※出典：【2020年12月発表】ITエンジニア動向総まとめーデータで見るレバテックー
<https://career.levtech.jp/guide/knowhow/article/574/>

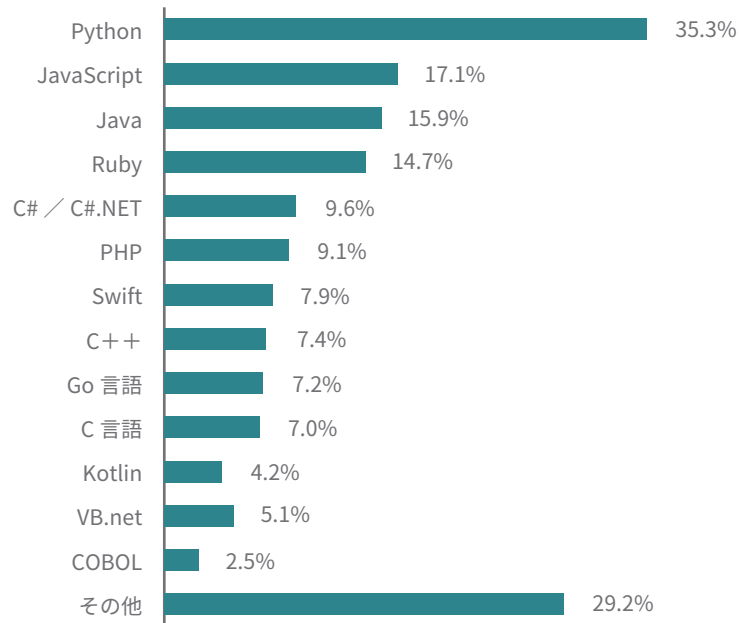


2-3. これから習得したいと考えているプログラミング言語

これから習得したい言語の1位はPython (35.3%) でした。PythonはWebサービス、スマホアプリなどの開発以外にも、近年注目されている機械学習の主流なプログラミング言語です。大量のデータを高速で計算することができるビッグデータ処理の場面でも活躍しています。

これから習得したいと考えているプログラミング言語

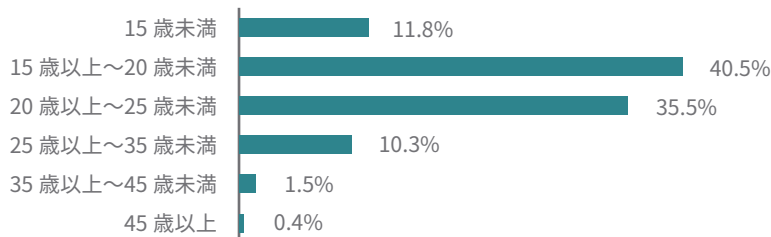
※複数回答



2-4. 初めてプログラミングに触れた年齢

初めてプログラミングに触れた年齢は、「15歳以上～20歳未満」(40.5%) が一番多く、ついで「20歳以上～25歳未満」(35.5%) でした。また、「15歳未満」と回答した人も11.8%にのぼり、半数以上のエンジニアが20歳までにプログラミングに触れていることとなります。小学校では2020年度からプログラミング教育が必修化し、「初めてプログラミングに触れた年齢」は今後さらなる若年化が予想されます。

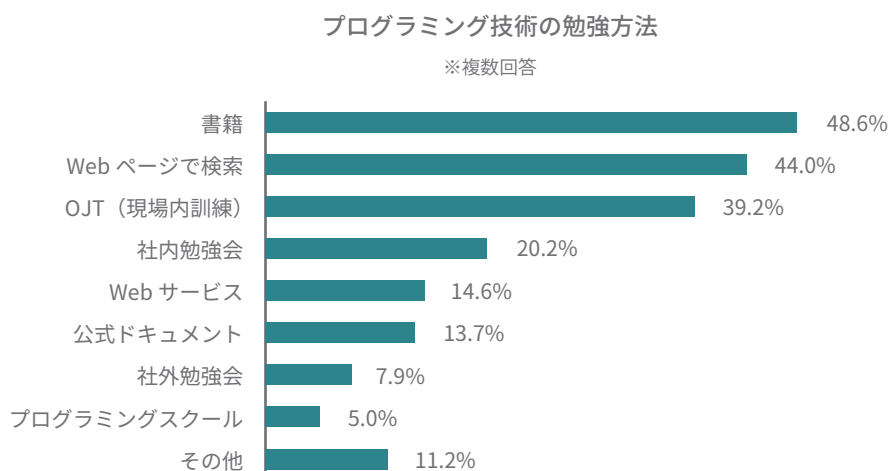
初めてプログラミング言語に触れた年齢



2-5. プログラミング技術の勉強方法

プログラミング技術の勉強方法に関する質問では、約半数が「書籍」(48.6%)と回答しました。続いて、「Webページで検索」(44.0%)に続きます。

「新しい技術の基礎の習得は書籍で行い、アーキテクチャなどの設計手法は企業のテックブログで事例を調べる。エラーが出れば個人のテックブログや公式ドキュメントなどで調べて問題を解決する」というように、知りたい情報によって、インプットの方法を分けているエンジニアも多いようです。



03 ITエンジニアの転職活動

3-1. 重要視する働き方

エンジニアが重要視する働き方として、「給与」が25.1%と一番多い結果となりました。ついで「仕事とプライベートの両立」(9.5%)「職場の雰囲気」(8.4%)と続きます。

日本の月間総実労働時間は2000年以降減少傾向にあり、2016年は143.7時間と2000年と比べて10.7時間減少(※)しています。「仕事とプライベートの両立」が2位であることから、IT業界においても「仕事と生活を調和しながら、オンとオフをしっかりと切り替える」ことで自分の時間や家族との時間を確保するというワークライフバランスの意識が高まっていることが伺えます。

※参考：平成29年版厚生労働省労働経済の分析

<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/roudou/17/dl/17-1.pdf>

重要視する働き方

1位	給与	(25.1%)
2位	仕事とプライベートの両立	(9.5%)
3位	職場の雰囲気	(8.4%)

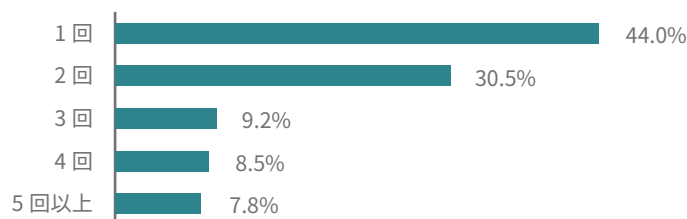
※3位まで抜粋

3-2. 転職回数と重要視する働き方「給与」の相関

重要視する働き方において「給与」を選んだエンジニアのうち、25.5%が転職を3回以上している結果となり、自身の働き方において給与面に重きを置くエンジニアは転職を繰り返す傾向にあることがわかりました。

しかし、給与にこだわりすぎることは社風や仕事内容とのマッチングに目が向かなくなり、結果として短期離職につながりかねません。エンジニアのキャリア形成には知識・スキル習得、実務経験の積み重ねをすることが重要です。

重要視する働き方を「給与」と回答した人の転職回数



3-3. 仕事のモチベーション

仕事のモチベーションの1位は「満足する給与がもらえること」(34.3%)、ついで「やりがいを感じられること」(15.8%)「社内の人間関係が良好であること」(8.5%)が続きます。

仕事のモチベーション

1位	満足する給与がもらえること	(34.3%)
2位	やりがいを感じられること	(15.8%)
3位	社内の人間関係が良好であること	(8.5%)

※3位まで抜粋

3-4. 理想の職場

エンジニアが理想とする職場の1位は、「満足のいく給与をもらえること」(32.0%)でした。2位は「社内の人間関係が良いこと」(19.7%)3位は「業績が安定していること」(10.3%)という結果になりました。ITエンジニアの需要は年々高まっていることから、自身の市場価値に見合った報酬=給与を求める人が多いことが伺えます。

理想の職場

1位	満足のいく給与をもらえること	(32.0%)
2位	社内の人間関係が良いこと	(19.7%)
3位	業績が安定していること	(10.3%)

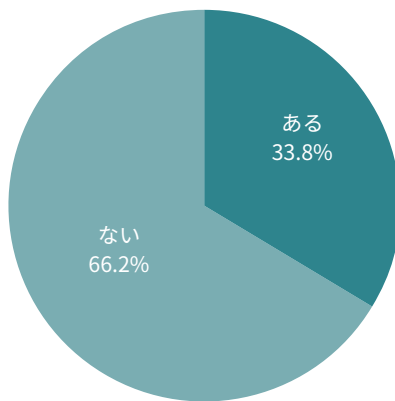
※3位まで抜粋

3-5.ITエンジニアとしての転職経験・転職回数

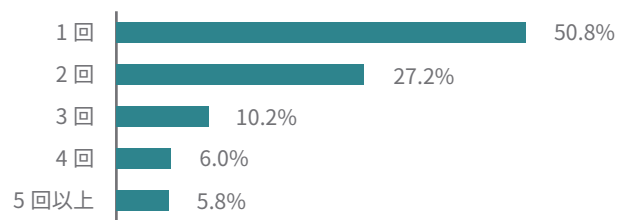
約3割のエンジニアが転職経験があるという結果になりました。

また、転職回数についての質問では、「4回」もしくは「5回以上」と回答したエンジニアは合わせて全体のおよそ1割程度にとどまり、「1回」または「2回」と回答したエンジニアは合わせて78.0%と、転職経験のあるエンジニアの大多数が1～2回の転職回数であることがわかりました。

ITエンジニアとして転職した経験



ITエンジニアとしての転職回数



3-6.ITエンジニアとして転職した理由

ITエンジニアとして転職した理由について、「今後収入が上がる見込みが低いから」が17.8%、「キャリアアップのため」が12.7%、「労働条件が悪かった」が11.6%でした。IT業界では、転職によって年収を上げる・キャリアを形成するという考え方が普及しています。

ITエンジニアとして転職した理由

1位	今後、収入が上がる見込みが低いから	(17.8%)
2位	キャリアアップのため	(12.7%)
3位	労働条件が悪かった	(11.6%)

※3位まで抜粋

3-7.キャリアの満足度から見る転職活動理由

「残業や休日出勤が多かった」「不本意な異動があった」など労働環境によって転職をしたエンジニアは今のキャリアに「満足している」と回答した人が多く、転職活動によって労働環境の改善が見受けられる結果となりました。また、直近の転職理由が「人間関係」や「自身の体調不良」によって転職した人は不本意な転職活動であったためか、今のキャリアに満足していない傾向にあります。

キャリアに満足している傾向にある人の転職理由

1位	残業や休日出勤が多かった	(68.0%)
2位	不本意な異動があった	(63.7%)
3位	新型コロナウイルス感染拡大の影響による業績不振のため	(60.0%)
	本当にやりたいことがみつかったから	(60.0%)

※3位まで抜粋

キャリアに満足していない傾向にある人の転職理由

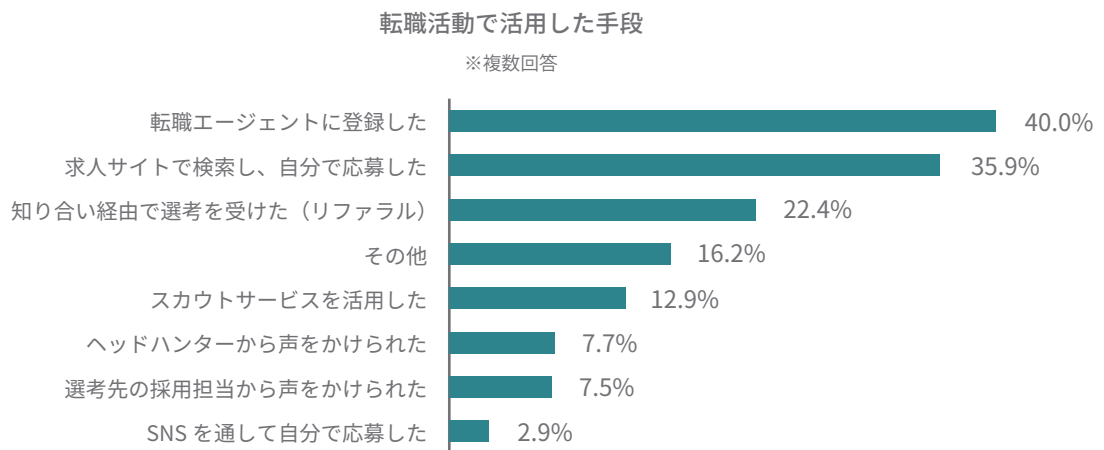
1位	上司への不満があった	(42.3%)
2位	人間関係	(33.3%)
3位	体調不良	(29.4%)

※3位まで抜粋

3-8. 転職活動で活用した手段

転職活動で活用した手段は、「エージェントの利用」が40.0%と最多でした。

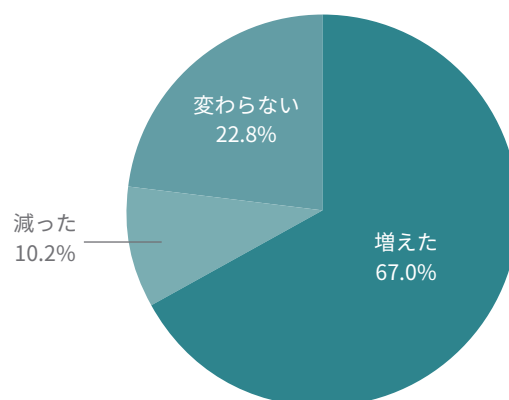
転職エージェントでは求職者とエンジニアをマッチングするだけでなく、キャリアアドバイザーとともに中長期的にスキルや年収のアップを実現できるキャリアのロードマップを一緒に考えることも可能です。そのため、転職活動を初めてする方や、自身のキャリア形成に迷っている方などに多く利用されています。



3-9. 転職による年収の変化

転職活動を経験した人のうち、67.0%が「年収が増えた」と回答しました。

ITエンジニアとして転職して、年収は増えたかどうか

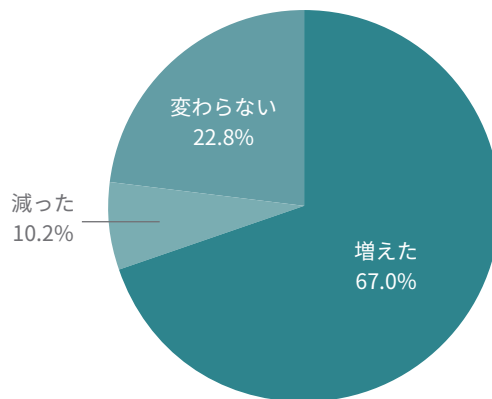


3-10. 転職エージェントを利用して転職した人の年収の変化

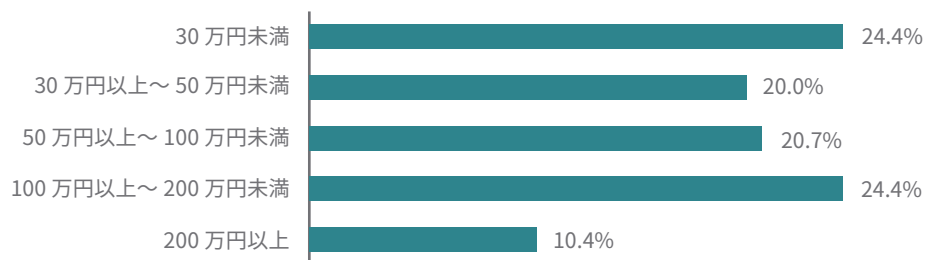
エージェントを利用して転職をした人のうち、約7割が年収が増えたと回答しています。また、そのうち4割が100万円以上年収が増えたと回答しました。

転職エージェントではキャリアアドバイザーを通して求職者の実績や経験を基に企業に適切な条件を交渉してくれるため、年収が上がるエンジニアも多いと考えられます。

転職エージェントを利用して転職した人の年収の変化



転職活動で「エージェント」を利用した人のうち年収が上がったと回答した人の金額

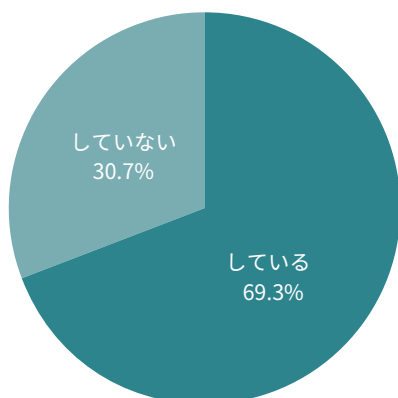


04 リモートワーク

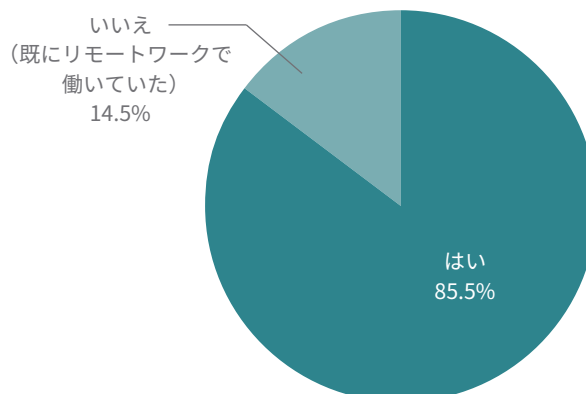
4-1. リモートワークの状況

約7割のエンジニアが現在リモートワークを「している」と回答、そのうち新型コロナウイルス感染症の拡大の影響でリモートワークになった人は85.5%に登ります。緊急事態宣言を機にIT業界においてもリモートワークが急速に普及したことが伺えます。

リモートワークの有無



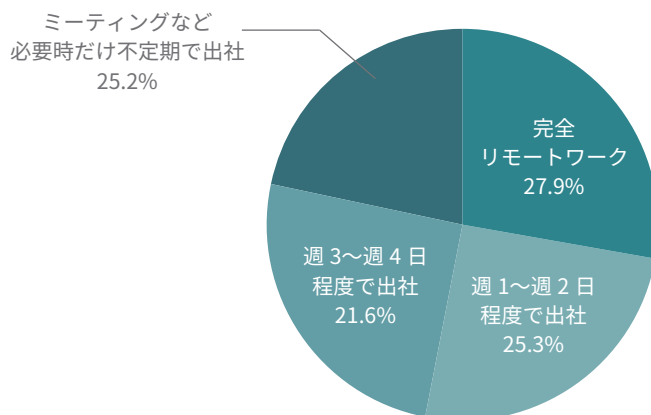
リモートのきっかけは
新型コロナウイルスの感染拡大の影響か



4-2. 出社頻度

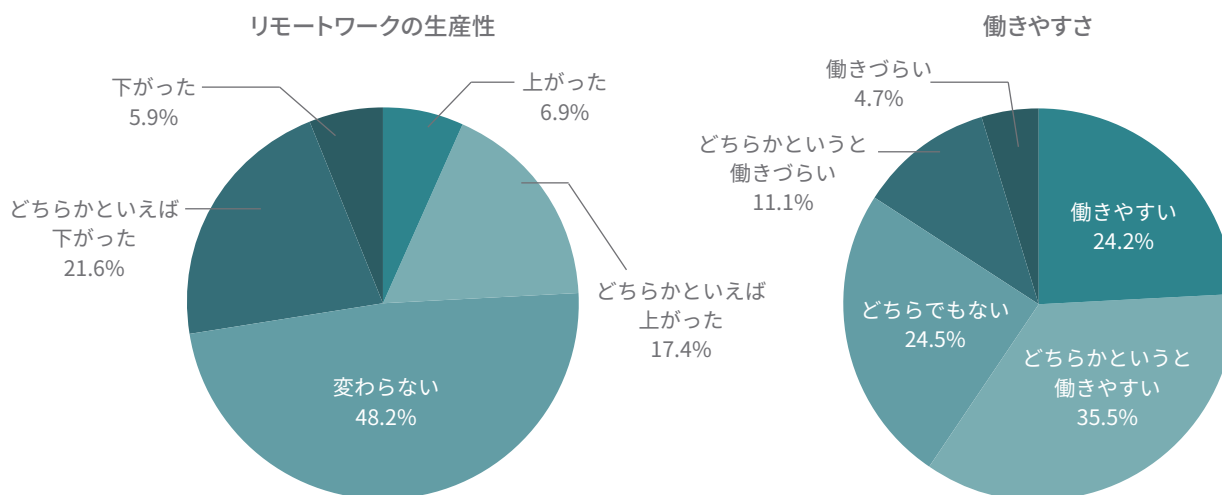
リモートワークをしている人の出社頻度についての質問では、「完全リモートワーク」が27.9%と一番多く、ついで「週1～週2日程度で出社」が25.3%「ミーティングなど必要時だけ不定期で出社する」が25.2%でした。

現在の出社頻度



4-3. リモートワークの生産性、働きやすさ

リモートワークによる生産性の変化については、48.2%のエンジニアが「変わらない」と答えています。また、現在リモートワークをしているエンジニアの半数以上が「働きやすい」「どちらかという働きやすい」と回答しています。



4-4. リモートワークのメリット

4割以上のエンジニアが「通勤時間がなくなり、時間的余裕ができたこと」をリモートワークのメリットの1位に挙げています。通勤時間の削減により時間を有効活用することができ、仕事とプライベートの両立がしやすくなったと考えられます。

リモートワークで働くメリット

1位	通勤時間がなくなり、時間的余裕ができたこと	(42.1%)
2位	通勤がなくなり、通勤時による疲れがなくなったこと	(29.1%)
3位	家事や育児の時間を増やせること	(6.3%)

※3位まで抜粋

4-5. リモートワークのデメリット、仕事をする上で心掛けていること

リモートワークのデメリットで挙げられたもののうち一番多かった項目は、「社内（チーム）の人とコミュニケーションがとりづらいこと」（21.4%）でした。

また、リモートワークで仕事をする上で心がけていることは、「早めにレスポンスをすること」（17.7%）「オンオフの切り替えのため、しっかり休憩をとること」（14.9%）、「社内（チーム）の人と積極的にコミュニケーションをとること」（12.4%）と続きます。

リモートワークで働くデメリット	仕事をする上で、心掛けていること
1位 社内（チーム）の人とコミュニケーションがとりづらいこと (21.4%)	1位 早めにレスポンスをすること (17.7%)
2位 通勤などがないために運動不足になってしまうこと (13.8%)	2位 オンオフの切り替えのため、しっかり休憩をとること (14.9%)
3位 仕事のオンオフの区別が曖昧になり、働きすぎてしまうこと (10.0%)	3位 社内（チーム）の人と積極的にコミュニケーションをとること (12.4%)

※3位まで抜粋

※3位まで抜粋

レバテック版 ITエンジニア転職白書 2021

調査概要

調査目的：エンジニアの転職実態の把握

調査期間：2021年2月26日～2021年3月2日

調査方法：インターネット調査

調査協力：株式会社 インテージホールディングス

調査対象：2021年3月時点で満18歳～50歳の正社員として働くITエンジニア 男女

集計対象：1424s

発行 2021年6月 レバテック株式会社

